

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	宮崎県		学校名	小林市立細野小学校	
人権課題	子供	対象学年・ 取り扱った教科等	第1学年・学級活動他	時数等	1時間 帰りの会等
目標・人権教育のねらい	相手の気持ちを考えながら、自分の思いを表現することができるとともに、よいと思うことを進んで行うことができる。				
実施した内容	① 帰りの会での称賛の場の設定 ② 学級活動の時間 仲間の誘い方・みんな親切・みんななかよし（人権すごろく）				
工夫した点	① 子どもたちのよいところを教師が伝えることで、友だちのよさに目を向けさせた。 ② 人権教育ハンドブックを利用し、じゃんけんゲームやすごろくを通してコミュニケーション能力のスキルを高めたり、望ましい人間関係を築こうとしたりする活動を行った。				
他教科との 関連	・ 特別活動 集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的実践的な態度を育てる。 ・ 西諸みんなで人権を考える日の取組 紙芝居「白い魚とサメ」				

事業成果

友だちのよさを意識して行動する姿が少しずつ見られるようになってきた。

知識的側面「友達にいやなことを言ってはいけない理由を知っている。」

事業開始時： 83 % → 事業終了間際： 88 %

価値・態度的側面「友達が失敗したり間違えたときにどうすればよいか知っている。」

事業開始時： 86 % → 事業終了間際： 96 %

技能的側面「友達のよいところを見つけることができる。」

事業開始時： 88 % → 事業終了間際： 98 %

【児童の変容】

学級活動や、朝の会、帰りの会で友達のよいところを見つけ、発表する活動を行ったことで、友だちのよさを意識して行動する姿が少しずつ見られるようになってきた。また、学活や日ごろの学校生活を通して場面指導を行うことで、場に応じた適切な行動が見られるようになった。アンケートの数値も改善されており、児童が学びを深めていると考えることができる。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

宮崎県

学校名

小林市立細野小学校

人権課題

女性

対象学年・
取り扱った教科等

第2学年・学級活動、道徳

時数等

1時間

目標・人権教育のねらい

相手の気持ちを考えながら、自分の思いを表現することができるとともに、よいと思うことを進んで行うことができる。

実施した内容

- ・ 学級活動「男の子女の子」～あなたの好きな色は～、「ぐらぐら森のおばけ」
- ・ 道徳「いいところみつけた」

工夫した点

- ・ ワークシートに色を塗って表現させ、全員のワークシートを黒板に掲示して、全体で話し合った。
- ・ 自分や友達のいいところをワークシートに書かせ、発表が苦手な児童にも取り組みやすくした。
- ・ ペアや小グループで意見を交流する時間を取り、全体で意見を出しやすくした。

他教科との
関連

- ・ 国語科「お手紙」、「そうだんにのってください」
- ・ 生活科「学校探検」、「おもちゃまつり」
- ・ 西諸みんなで人権を考える日の取組

事業成果

知識的側面「青は男の子、赤は女の子の色とは決まっていない。」

事業開始時：81% → 事業終了間際：100%

価値・態度的側面「自分や友達の好きな色は何色でもよい。」

事業開始時：100% → 事業終了間際：100%

技能的側面「自分の好きな色を自分で決めることができる。」

事業開始時：92% → 事業終了間際：100%

技能的側面「友達の好きなことが自分と違っていても認めることができる。」

事業開始時：100% → 事業終了間際：100%

【児童の変容】

性別に関係なく、自分の好きなものを選んでいいことに気付くことができた。

個性や多様性について考えさせることができた。

グループ活動で、相手の意見を聞く態度や協力する姿が見られた。

上級生として、1年生を思いやる姿が多く見られた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	宮崎県		学校名	小林市立細野小学校	
人権課題	外国人	対象学年・ 取り扱った教科等	第3学年・外国語活動		時数等 35時間
目標・人権教育のねらい	- 一人ひとりが多様な文化や民族の違いを理解し、認め合うことができる。 - 相手を尊重し、言葉や生活習慣等が違う人に対しても、進んで関わろうとする意欲を高める。				
実施した内容	外国語の授業を中心に、日常の中でALTとの交流を行った。				
工夫した点	3年生は、子どもたちが初めて外国語を学習する学年でもあることから、子どもたちが外国語や海外について楽しく学べるように意識して指導を行った。 - ALTに自国の文化について紹介をしてもらうことのほか、自己紹介のカードをつくってもらい、廊下に掲示して英語や海外の文化に触れることができるようにした。				
他教科との 関連	道徳（「国際理解、国際親善」） 道徳科の学習の中でも異文化・国際理解について考える時間を設けた。				

子どもたちは、毎回外国語の授業を楽しみにしていて、ALTと積極的に関わろうとしている。授業の中では、ALTが何を言おうとしているのかジェスチャー等から推測する姿も見られるようになった。

また、アンケートの結果は次のようになっている。

知識的側面「日本の人と外国の人の同じところ、ちがうところを知っている。」

事業開始時：48% → 事業終了間際：63%

価値・態度的側面「外国の人のことは、知らなくてもよい。」

事業開始時：74% → 事業終了間際：21%

価値・態度的側面「外国のことや外国の人についてくわしく知りたいと思う。」

事業開始時：76% → 事業終了間際：82%

価値・態度的側面「日本の人と外国の人では、日本の人となかよくしたい。」

事業開始時：75% → 事業終了間際：67%

技能的側面「外国の人に自分のことを伝えることができる。」

事業開始時：12% → 事業終了間際：47%

【児童の変容】

事業開始時には外国語に関する知識や経験がないために自信を持てなかった児童が、毎週の外国語の授業を通して少しずつ語彙や表現を身に付けたことで、自己紹介や気持ちを簡単な英語で伝えることができるようになり、それが児童の自信に繋がっていると考える。

技能的側面「外国の人が何を言おうとしているか、聞こうとすることができる。」

事業開始時：78% → 事業終了間際：91%

【児童の変容】

毎週の外国語の授業や休み時間等のALTとの交流を通して、言葉が分からなくてもALTの示すジェスチャーなどから何を言いたいのか推測することができることを学び、聞こうとする態度を養うことにつながったと考える。

事業成果

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	宮崎県		学校名	小林市立細野小学校	
人権課題	障がい者	対象学年・ 取り扱った教科等	第3学年・総合的な学習の時間		時数等 2時間
目標・人権教育のねらい	・ 聴覚障がいのある人について理解するとともに、手話について興味・関心をもち、これから学ぼうとする意欲をもつことができる。				
実施した内容	・ 手話がある理由、手話の意味、手話をするときの注意について知る。 ・ 簡単な手話を見せてもらい、意味を考える。 ・ 基本的な手話の仕方を学び、練習する。（あいさつ、自己紹介） ・ 練習成果の発表として、自分の名前を手話で表す。				
工夫した点	・ 外部講師を招聘し、手話を教えていただいた。 ・ コミュニケーションをとる上での基本的な手話に絞って練習した。（あいさつ、自己紹介） ・ 練習をする時間を多く設定し、自己紹介（自分の名前）がしっかりできるようにした。				
他教科との 関連	学級活動（「だれとでも仲よく」「友だちのよび名」「あたたかい言葉かけ」）				

事業成果

知識的側面「思いやりという言葉の意味を説明できる」

事業開始時：48% → 事業終了間際：73%

【児童の変容】

聴覚に障がいのある人への理解が深まり、相手を傷つける言葉や態度について考えようとする児童が増えてきた。

価値・態度的側面「友だちと意見がちがうことがあってよい」

事業開始時：88% → 事業終了間際：90%

【児童の変容】

それぞれに考えや思いがあり、その違いを認め合いながら友達と協力するようになってきた。

技術的側面「友だちが失敗したり間違えたりしたとき、どうしたらよいかわかる」

事業開始時：78% → 事業終了間際：95%

【児童の変容】

相手の気持ちを受け止めて慰めたり、話を聞いてアドバイスをしたり、自分の言動を振り返ったりする児童が増えた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	宮崎県		学校名	小林市立細野小学校	
人権課題	インターネットによる 人権侵害	対象学年・ 取り扱った教科等	第4・5・6学年 特別活動		時数等 1時間
目標・人権教育のねらい	・ インターネットを使う上で守らなければならない決まりを理解し、インターネットの適切な活用方法を理解する。 ・ 相手を傷つけたり、迷惑をかけたりしないよう考えながらインターネットを使おうとする態度を育てる。				
実施した内容	情報文化総合研究所 代表取締役（武蔵野大学名誉教授）佐藤佳弘先生を招いて、具体的な事例を挙げながら、インターネットの危険性や健康への影響について学習を行った。				
工夫した点	インターネットで被害者にも加害者にもならないために、未然防止策や万一被害に遭ったときの対応について、実際の事例を挙げながら講話をしていただいた。				
他教科との 関連	・ 総合的な学習の時間「使いすぎていないかな」（第4学年） ・ 保健「犯罪の予防」（第5学年） ・ 保健「生活習慣病の予防」（第6学年）				

事業成果

知識的側面「インターネットでは、何が危険かを理解している」

講話終了後 100%

児童の振り返りより

- SNSで知り合った人と会ってはいけない
- 歩きスマホはけがの原因になる
- オンラインゲームで知り合った人と会ってはいけない
- 無断で、お店でスマホの充電をしてはいけない
- Lineなどのアイコンに、キャラクターを使用してはいけない
- 長時間使用すると、猫背になる

価値・態度的側面「これからの生活に生かしたいと思う」

講話終了後 100%

技術的側面「情報機器を使用するとき、危険がないようにつかうことができる」

講話終了後 100%

児童の振り返りより

- スマホの使用やテレビを見るときは、姿勢に気を付ける
- 歩きスマホをしない
- 写真で位置情報が分かるので、みんなが見ることができる場所にのせない
- Lineの自動友達追加をオフにすることを母に教える
- SNSに自分の写真をのせない

【児童の変容】

具体的事例をもとに講話を行っていただいたので、全ての児童がインターネットや情報機器使用の際の危険なことについて、具体的に記述を行うことができ、どの項目においても高い数値になった。また、犯罪等の危険性だけではなく、健康への影響についても理解し、本校研究主題である「キャリア教育」に関連して学習することができた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	宮崎県		学校名	小林市立細野小学校	
人権課題	子供	対象学年・ 取り扱った教科等	第4学年・総合的な学習の時間		時数等 10時間
目標・人権教育のねらい	豊かな人間性や社会性、規範意識を培うために、動物とのふれあいや体験活動等を通して動物愛護の精神を醸成するとともに、動物とのかかわりを通していのちの連鎖や多様性に気付かせ、生命を尊重する心や他者を思いやる心、生命に対する畏敬の念をはぐくむ。				
実施した内容	第1次 動物愛護センターでのふれあい・体験活動を通して、人と動物のつながりを学び、「いのち」について考える学習を行った。 第2次 学校への出前授業を計画し、動物へのかかわりを学び、人間と動物との共生について考えることができた。				
工夫した点	第1次 「いのち」を知る体験活動として、聴診器を使って、直接自分の心音を聞かせてもらった。センターに保護されている犬や猫を獣医さんに見せていただいた。実際に犬や猫と触れ合うこともできた。 第2次 第1次の学習を踏まえた授業内容であり、専門の講師による児童の心に迫る手立てが取られていたため、身近なこととして学ぶことができた。				
他教科との 関連	国語「事実にもとづいて書かれた本を読もう」、「ランドセルは海をこえて」、「一つの花」、「ごんぎつね」、「プラタナスの木」 道徳「小さな草たちにはくしゅを」（身近な自然とのふれあい）、「聞かせて君の声を」（自然を守る）、「かわいそうなぞう」（生命の尊厳） 特別活動「男女仲良く」「命のはじまり」「ひとりぼっち」（よりよい人間関係）				

事業成果

知識的側面「動物には気持ちや感情がある。」

事業開始時： 83 % → 事業終了間際： 97 %

価値・態度的側面「ご飯や給食を食べるときは、いつも感謝の気持ちをもっている。」

事業開始時： 100 % → 事業終了間際： 100 %

技能的側面「友達のよいところを見つけることができる。」

事業開始時： 71 % → 事業終了間際： 100 %

技能的側面「動物を飼うときは欠かさずお世話をすることができる。」

事業開始時： 88 % → 事業終了間際： 100 %

【児童の変容】

愛護センターでの学習で、動物には気持ちがあり、命があることを見学や体験を通して学んだ。また事後の学習では、動物は、「野生」「家畜」「ペット」に分けることができるが、それぞれの動物を大切にするにはどうすればよいかを考えた。動物とのかかわりを通していのちの連鎖や多様性に気付かせ、生命を尊重する心や他者を思いやる心、生命に対する畏敬の念をはぐぐむことができた。

また授業前は他者を尊重する意識にばらつきがあったが、体験や授業を通して、100%自己肯定感をもち、他を尊重することの大切さを意識できるようになってきた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	宮崎県		学校名	小林市立細野小学校	
人権課題	女性	対象学年・ 取り扱った教科等	第5学年・学級活動		時数等 1時間
目標・人権教育のねらい	- 性別にとらわれた性別的分業観があることを理解する。 - 性別に関係なく、自分のやりたい仕事を見付けて意思決定できるようにする。 - 性別に関係なく、思いやる心を育成する。				
実施した内容	- 様々な職業について話し合う。 - 提示された職業を、男性・女性のどちらに向いているか仕分けする。 - グループで意見交換を行い、全体でグループごとに発表し合う。 - 職業について感じたことや考えたことを共有する。				
工夫した点	(指導上の工夫) - 話合いの際に、仕分けした理由を話すことで、お互いの考え方の違いに気付くことができるようにする。 - 性別に関係なく仕事に取り組む写真や映像を紹介することで、職業について理解を深めた。 (地域との連携) - 保育園と連携し、保育士体験を実施した。実際に園児とふれあう活動を行い、保育士の仕事を体験することができた。				
他教科との 関連	- 総合的な学習の時間で、保育士体験を行った。 - 総合的な学習の時間で、立志の集いに向けて自分の将来の夢を考えた。その際、学級活動の指導内容とのつながりを意識し、学んだ内容を振り返らせながら指導を行った。				

事業成果

知識的側面「男の人、女の人にふさわしい仕事がある」

事業開始時：61% → 事業終了間際：44%

【児童の変容】

性別に関係なくどの仕事をしてもいいことへの理解が深まり、性別にとらわれた考え方を
する児童が少なくなった。

価値・態度的側面「自分も友達も自由に将来の夢は、自由に考えてよい」

事業開始時：92% → 事業終了間際：97%

【児童の変容】

向き不向きはあるものの、自分のやりたい仕事をするのが大事ということに結び付ける
ことができていた。

技術的側面「自分の将来の夢や目標がある」

事業開始時：92% → 事業終了間際：100%

【児童の変容】

複数の仕事について知り、自分の夢や好きなことにつなげて自分事として考える様子が見
られた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	宮崎県		学校名	小林市立細野小学校	
人権課題	アイヌの人々	対象学年・ 取り扱った教科等	第6学年・社会科	時数等	2時間
目標・人権教育のねらい	・ アイヌの文化や歴史について調べる中で、アイヌの人々が差別や迫害を受けたことに気付かせる。 ・ アイヌの人々の思いや願いに共感させることによって、アイヌの人々や文化等を尊重する態度を育てる。				
実施した内容	・ アイヌの文化についてインターネットや資料等で調べる。（1時間） ・ 動画を視聴し、受け継がれているアイヌの文化について理解する。（1時間）				
工夫した点	・ 少人数派が差別を受けやすいことを想起させ、同和問題とも関連付けながら学習を進めた。 ・ 資料・動画を活用し、児童がアイヌ文化をイメージしやすいようにした。 ・ 今も受け継がれているアイヌの文化に焦点を当て、良さやアイヌの人の思いについて考えさせた。				
他教科との 関連	特別活動（「やさしさを広げよう」）				

事業成果

知識的側面「昔、日本にどんな差別があったかを知っている」

事業開始時：45% → 事業終了間際：91%

価値・態度的側面「学校や地域など、身の回りに差別が起こることはない」

事業開始時：55% → 事業終了間際：95%

技術的側面「友だちの個性を大切にすることができる」

事業開始時：91% → 事業終了間際：100%

【児童の変容】

アイヌ民族の伝統や文化に着目して授業を行った。授業後の児童の感想で、

- アイヌの人々が差別された歴史があったことを初めて知った。今でもアイヌの文化を伝えようとしている人がいることに感動しました。
- 私はアイヌの人々の「すべてのものに魂が宿っていて、すべてのものに感謝する」という考え方がいいものだと思います。ただそこに住んでいるだけでアイヌの人々は差別され、独自の文化を否定されて、そんなことが昔日本であったことに悲しくなりました。
- 私はアイヌのことを知らなかったので、今日の動画を見て、アイヌはいいところなんだなと思いました。また、自分が住んでいるところと、アイヌの人たちの文化が違うからと言って差別するのはおかしいと思いました。これからこのような差別が起きないといいなと思いました。

など、多くの児童がアイヌの差別や伝統、文化を理解し、数値にも表れた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	宮崎県		学校名	小林市立細野小学校	
人権課題	高齢者	対象学年・ 取り扱った教科等	第6学年 総合的な学習の時間		時数等 9 時間
目標・人権教育のねらい	・ 地域のお年寄りの方々の思いをふまえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しをもって追及する。 ・ 高齢者と共に、互いによりよく生きていこうとする意欲、態度を養う。				
実施した内容	・ 高齢者について調べる。（1 時間） ・ 高齢者疑似体験を通して、高齢者の困っていることについて考える。（2 時間） ・ ユニバーサルデザインについて調べ、考えたユニバーサルデザインについて発表する。（6 時間）				
工夫した点	・ 近隣の社会福祉協議会から、高齢者疑似体験セットを借りて 体験的な活動の時間を十分に確保した。（関係機関との連携） ・ 図書室や小林市立図書館にある高齢者に関する本を教室に置き、いつでも見ることができるようにした。 ・ 身近にあるユニバーサルデザインを探し、実際にユニバーサルデザインを考えることで、課題の設定、解決を意識的に行った。				
他教科との 関連	社会科（「わたしたちの願いと政治のはたらき」）				

事業成果

知識的側面「高齢者の困っていることや、手助けが必要な場面を知っている」

事業開始時： 70 % → 事業終了間際： 100 %

価値・態度的側面「高齢者が困らないための方法を考えたいと思う」

事業開始時： 75 % → 事業終了間際： 98 %

技術的側面「高齢者が困っていたら、進んで助けることができる」

事業開始時： 82 % → 事業終了間際： 98 %

【児童の変容】

高齢者疑似体験を通して、高齢者の困っていることや手助けが必要な場면을全員が理解することができた。また体験をもとに、どのような道具が施設が体の不自由な人にとって使いやすいかを相手の立場に立って考え、アイディアを出すことができた。このことが、「高齢者が困らないための方法を考えたいと思う」の数値上昇につながっていると考えられる。

また、高齢者だけでなく、日常から1年生のお手伝い等の活動を通して困っている人を進んで手伝う姿が見られていたが、今回の単元を通して、何をどのようにすれば相手のためになるかを考えることができたため、「高齢者が困っていたら、進んで助けることができる」の数値上昇につながったと考えられる。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	宮崎県	学校名	小林市立細野小学校		
人権課題	同和問題（部落差別）	対象学年・ 取り扱った教科等	第6学年・社会科	時数等	2時間
目標・人権教育のねらい	- 江戸時代の文化や学問について、資料の読取りを通し、人々の考え方や暮らしの様子などを踏まえ、理解することができる。 - 差別を受けていた人々のもつ、優れた技術が、江戸時代の社会や文化の発展などを支えたことに気付かせると共に、同和問題（部落差別）に関する歴史について理解させる。 - 全国水平社宣言から、差別を受けた人の思いや願いについて知り、これからの社会の担い手として、差別をなくすために自分ができることについて考える。				
実施した内容	- 解体新書や日本地図等、当時の学問の発展について、今まで活用されていた解剖図や地図との比較を通して、理解する。 - 太鼓の作り方や解体新書から、差別を受けてきた人々の優れた技術が、現代の生活にも生かされていることに気付く。 - 全国水平社宣言を読み、差別に立ち向かう人々の思いや願いについて考える。				
工夫した点	- 資料の比較を通して、優れた学問とその発展に寄与した人々の願いや努力について、実感を伴って理解できるようにした。 - 太鼓の作り方を提示し、差別を受けた人々のもつ高い技術が現代に受け継がれていることに気付かせた。 - 差別に立ち向かう人々の思いや願いを知り、自分達にできることについて考えることで、差別を自分のこととして捉えることができるようにした。				
他教科との 関連	道徳科「地球一周を歩いた男～伊能忠敬」と関連させ、優れた技術と発展に寄与した人物の思いや願いについて理解を深めさせた。				

事業成果

知識的側面「昔、日本にどんな差別があったかを知っている」

事業開始時：45% → 事業終了間際：91%

価値・態度的側面「学校や地域など、身の回りに差別が起こることはない」

事業開始時：55% → 事業終了間際：95%

技術的側面「友だちの個性を大切にすることができる」

事業開始時：91% → 事業終了間際：100%

【児童の変容】

先人の素晴らしい技術に触れ、その良さを発見することができた。全国水平社宣言等、明治新政府の解放令が出された後も、差別が続いていたことや差別が現代でも続いていることについて学習を深めた結果、同和問題の理解や身の回りで差別が起こる可能性があることを理解した児童が多く見られた。